

パネルディスカッション

鷺崎氏 鬼頭学長の基調講演のお話は、人口減少を迎えている今こそ社会を変えなければいけない時代なのだという指摘だ。そうした問題意識から地域リーダーの役割についてそれぞれ思うところを語っていただきたい。

西氏 地域リーダーとは着



西氏

地、方向性を示し、自らも汗をかきながら引っ張っていく人。人口減や経済の低迷を受け、静岡県もようやく動き始めたが、他県に比べ遅きに失した。しかもそれは鼻先にニンジンをつぶら下げるようなもので、残念だ。財政出動しな

くても規制緩和などで投資を持ってくる知恵や施策はある。土地政策のちよつとした見直しや容積率の緩和などをやればいい。また、静岡はこんなことをしたいというビジョンを民間に分かりやすく示すことも大切だ。

企業は国内、海外で進出の峻別をしている。こうした企業を静岡が受け入れていく。ポイントはいかに危機感を持って自らのこととして解決し、実現するよう行動するか、これに尽きる。

▽地域に開かれた大学に

日詰氏 かつて大学は地域の人から「ベルリンの壁」と言われるほど閉ざされていた。大学の役割は地域で活躍できる人材を育てる。それには従来の与えられたカリキュラムではなく、学生自ら主体的にカリキュラムを設定していくように変える。また、学生や

リーダーは危機感持ち行動を

職員自身が地域の問題に立ち向かい、解決策を見つけ出し、乗り出していくアクティブさが求められる。

地域から学ぶとともに、その経験を大学に持ち帰って学び直す。もう1つ、地域で活躍されている方々にもう1度大学を使ってもらう、リカレント教育の場としての大学だ。研究者との触れ合いなどにより壁は少しずつ低くなる。

大学自身がいろんなネットワークをつくることも重要だ。ことし9月に視察したシリコンバレーではスタンフォード大を拠点に大学、企業、NP



日詰氏

Oなどがいろいろとつながり合い、新しいイノベーションが生まれている。こうした取り組みがこれからはますます求められる。

●パネリスト

- | | | |
|----|-----|----------------------------|
| 西 | 雅寛氏 | 協立電機代表取締役社長 |
| 日詰 | 一幸氏 | 静岡大人文社会科学部教授
(当懇話会研究委員) |
| 渡村 | マイ氏 | NPO法人SACLABO代表理事 |
| 飯倉 | 清太氏 | NPO法人サプライズ代表理事 |

●コーディネーター

- | | | |
|----|-----|------------------------------|
| 鷺崎 | 早雄氏 | 静岡産業大学総合研究所副所長
(当懇話会研究委員) |
|----|-----|------------------------------|

▽1人1人がプレイヤー

渡村氏 私たちの団体は3年目の若い団体。メンバーの100%がUターン組。私も地元が嫌で出て行ったが、沖縄やアメリカの先住民の文化などを学ぶ中で足元を見つめ直す大切さを知った。最初は観光協会に勤め、観光素材ではないものを観光素材化して定住型観光にすることに取り組んでいた。

今はプロジェクト型のNPOとして何かをやりたい人がプレイヤーになって人を集める可能性がある人も多いが、

評論家的な人も多い。思いついたら試みるということが大事。団体名のラボもそうした実験的な試みという意味でつけている。NPOと言うとボ



渡村氏

ランテニア好きの人が何か理想に燃えてやっていると見られがちだが、それぞれ思惑もある。市役所の人もいればお坊さんもいて活動を通して仕事へのメリットを感じている。会員には鉄道マニアもいれば居酒屋の店長、農家の人もいて情報のプラットフォームを形成している。そこが苗床になって新たに羽ばたいていけばいいし、新しい人との出会い、企業、大学とのつながりによって地域が活性化すればいい。これまでとは違う視点を得られるのがこうした場だ。多様性をはぐくんでいくのが地域

リーダーの役割ではないか。
▽人口減に応じ生活見直す
飯倉氏 伊豆市を拠点に主



に地域プロデューサーや人材育成に取り組んでいる。伊豆市の人口減も激しく、3万2000人だが、3万頭の鹿に抜かれるのも時間の問題だ。人口減についてはある時、高校生から一人が減って

大切なのは雇用の確保と拡大

何が悪いの」と聞かれた。大人は税金が少なくなる、地域コミュニティが崩壊すると答えるが、税金なら「ビル・ゲイツが1人来ればいい」という。

コミュニティも大規模市の歩道の草が伸び放題なのを見ている人は自分ごとになっていないところには関心がな



飯倉氏

いし、あまりそれを議論しても意味はない。つまり人口減に応じた新しいライフスタイルや働き方を考えて行かなくてはいけない。人が減るということは残った1人1人の質を上げるしかない。

もう1つ大事なことは地域愛をどれだけ得られるか。若い人に出て行くなと言うのは自分たちが出て行った経験があるのにどんなものか。むしろ

ろどんどん外に出て行ってもらって静岡の宣伝マンになってもらう。その結果、よその人が静岡に魅力を感じて来てもらう。地域愛の強いところ、例えば沖縄や北海道は観光客も多い。

鷲崎氏 それぞれ思い描いているリーダー像やリーダーへの期待について聞かせてほしい。

▽付加価値高い製造業を

西氏 これからのリーダーに期待したいのは雇用の確保と雇用の拡大だ。どんなに住み良い街をつくっても働く場所がなければ住んでいられない。県など行政も雇用についてはいろいろ取り組んでいるが、どうも観光とか文化で雇用をと考えているようだが、静岡県の特徴は製造業。製造業の従事者も多いし、雇用吸収力も高い。付加価値の高い製造業の在り方を考えるべきだ。
日詰氏 静岡大学の場合、県内出身者は全学生の3割、東海3県が3割、残りは各地。県内出身者の県内での就職を

さらに促進するとともに、県外の方にも魅力ある県内企業に就職してもらうよう大学としてもお手伝いしたい。県内の地域リーダーと学生との触れ合いの場をぜひ設けてほしい。その方々が将来のモデルになれば学生たちの県内定着への動機づけになる。

▽女性が自由に動ける環境に

渡村氏 多くの学生が就職先の1つとしてNPOを意識しているのは感じていますが、なかなか雇用となると難しい。ただ、NPOのような活動も仕事になるということを分かってもらえればいい。また、日本の女性は諸外国に比べてもレベルが高い。しかし、子育てなどで自由に動けない。こうした環境整備にもぜひ取り組んでもらいたい。

飯倉氏 修善寺で現在、ドットツープロジェクトという事業を展開している。地元企業と協力して700坪の土地に2LDK付きの小規模オフィス12軒を来年3月までに建てる。既に6軒内定してい

る。シリコンバレーのようなことができればいいが、こうした小さいことの積み重ねで新しい街づくりにみんなでチャレンジしたい。



鷲崎氏

というと統率力があり、責任を果たす、強いパワーを持った、例えば田中角栄のようなイメージがある。ただ、時代や社会の変化で新しいリーダー像としてはソフトで、協調型のイメージを持つが、みなさんはどうか。

飯倉氏 地元の高校生たちと月1回、清掃活動を行っている。単なる環境美化ではなく、広報から集客、当日のあいさつまですべて高校生たちに任せている。最初に声をかけるのは生徒会。私のような卒業

多様性富む地域で主役増やす

の大人がいきなり話しかけても関心を示さない。比較的意識の高い生徒会に任せ、残りの生徒たちに翻訳してもらおう。その方が意図も伝わりやすいし、大人はそうした活動をバックアップしていく。

渡村氏 1人のリーダーがみんなを引っ張っていくのではなく、私たちはリーダーを増やしていく。例えば鉄道マニアがいればその分野のリーダーになってもらう。地域において多様性が大切。適材適所で、たくさん主役をつくる。それぞれが得意分野で能力を発揮する仕組みをつくっていききたい。

西氏 3年前からNPO静岡交響楽団のお世話をしている。最初に驚いたのは事業計画とか決算など企業なら当然あるべきものがない。この2年間でいろいろ取り組んだ結果、正会員は4倍、スポンサーは2倍になり、全国規模の音楽雑誌にも取り上げられた。たとえNPOでも財政基盤がしっかりしていなければ先に

進めない。

日詰氏 行政に多くを望むのは難しい時代だ。官民連携がますます重要。行政のリーダーにはぜひ着地点、方向性を明確に示してもらいたい。大きなピクチャーを描き、道筋をきちんと説明する、そうした能力が求められる。

▽今が最後のチャンス

西氏 4年前、静岡経済同友会の代表理事をやり、それ以来、行政にいろいろ提言してきた。静岡市はちょうど市長が変わったばかりで、すぐ反応し、月1回議論してきたが、行政はわれわれのことが本当にウエルカムなのか疑ってしまう瞬間もあった。行政には長年積み上げてきたストーリーがあり、それと若干離れたものには抵抗がある。

もう少し民間の意見にも耳を傾けてほしい。静岡は他県に比べ（経済の立て直しに）何周も遅れている。今は最後のチャンス。そこで何をやるか。もっと有機的に官民連携を図るべきだ。